Japan Society of Obstetrics and Gynecology

エッセイ

産婦人科医が“膣”を使ってはならない

益田赤十字病院　第一産婦人科部長
水田　正能

先日，京都で行われた産科婦人科学会総会に参加した．京都は古代・中世より政治・経済・文化の中心であり，医学においても多くの医師が活躍したところである．産婦人科医にとっても重要な意味をもつ場所で，賀川流産科の鼻祖である賀川玄悦が，下京区下松屋町通松原下った一貫町において，遷延横位の産婦に対して初めて産科手術を行った．その後に「大抵五月之後，腹中胎大如瓜，必背面而倒首，其頂当横骨上際而居(大抵五月の後，腹中の胎の大きさ瓜の如し．必ず背面(せをむ)けて，首を倒(さかさ)にす．その頂，横骨の上際に当りて居す)」(荒井保男著,『医の名言』中央公論社)と書き，世界で初めて，頭位が正常胎位であると著書『産論』に表した．玄悦の墓は下京区中堂寺西寺町の玉樹寺にある．

その京都で行われた学会で，ポスター発表を中心に拝見した．ポスター発表は詳細にみることができるので，学会ではとくに時間をかけることにしているが，ふと思い立って，漢字の“腟”と“膣”のいずれをポスター発表の中で使用しているか数えてみた．日本人の発表全643発表の内で，ポスターに“腟”あるいは“膣”の漢字を見つけた発表が40編．その中で“腟”が24編，“膣”が16編だった．

いずれの字が正しいか．正解は“腟”である．医史学の泰斗で東京大学名誉教授であられた故小川鼎三博士は,「日本の医学用語としては【膣】ではなくて【腟】が正式である．」と,『医学用語の起り』(東京書籍，1990年)に書いておられる．

“腟”という漢字は，文政９年(1826年),『重訂解体新書』の中で，大槻玄沢が初めて使用している.『重訂解体新書』は,『解体新書』の原典であるクルムスの『解剖圖譜』を翻訳，重訂したものである．その中で大槻玄沢は,“腟”を女性生殖器に用いた理由として,「腟，法技納(ハギナ)〔羅〕，悉刼乙牒(シケイデ),〔蘭〕」とあり，さらに「按ズルニシケイデハ室ナリ．則チ男茎容受ノ室ナリ，且ツ胎産及ビ月経通利ノ道ナリ，イマ新ニ字ヲ製シテ訳シテシカ云ウ．室ノ辺傍肉ニ从ウ，音ヲ叱トナス，則チ会意ナリ．中略，肉生ズルナリノ腟ニハ非ズ」と書いている．これは,“腟”は以前より中国に存在していた漢字で,『玉篇』に「腟チツ，音扶，肉生也」とある．大槻玄沢は，中国製漢字の「肉が生ずる」という意味の“腟”の存在は知りつつも，臓器の特徴を著すために,「月(にくづき)部」に「室」を会意した漢字“腟”を使用したのである．大槻玄沢の記載は，小生の出身地である岡山県津山市にある洋学資料館で『重訂解体新書』を拝見させていただき，確認した．

どうして“膣”が誤用されているのか．一般に,“腟”は“膣”の略字であり,“膣”の方が古い字体で正式だと誤解されているようである．昭和22年初版の小川政修氏の『西洋醫學史』で探してみると,「妊娠診斷，受胎，陣痛促進(坐藥)，乳分泌増加(膏藥貼用)，通經(煎劑の腟内注入)」と,“醫學”“斷”“經”などの旧字体の中でも,“腟”が正確に使用されている．さらに断定的な証拠として，大槻文彦氏は『大言海』に,“腟”と“膣”は異義の字であると書いているが,「腟ハ篇海「音室，肉生也」ト．今ハ腟ト同ジク用ヰル」と続く．この『篇海』は，前出の『玉篇』より後代の著であるので，強いて言えば「腟」の方が旧字体なのである．

また，1851年の中国で出版された『全体新論』には，女性生殖器の記載では“陰道”と書き表されているという．ところが，1915年中華民国発行の『辞源』に,「膣，女子陰道，上通子宮，一名生殖口」とある．この点から，中国が“腟”ではないが，同じ使い方をする後世の字である

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

“膣”を使うのは,『重訂解体新書』の影響であろうと小川鼎三博士は書いている．現在の多くの産婦人科医の，漢字は中国が本場という先入観が,“膣”を本家扱いして誤用しているのである．たしかに，現在のパソコンで“ちつ”と入力すると，通常には“膣”の字がまず選択され,“腟”は手書き文字入力などで探さなければならない．しかしながら，正しいのは“腟”であるから，全ての産婦人科の教科書に“膣”の字はない．

平成18年度より，鳥取大学医学部臨床准教授の職責をいただき，医学部学生に講義を行うこととなった．内容は産科を中心にした医学の歴史についてである．その場でも,“腟”の字についても強調しておいた．今回，ポスター発表された先生方の中には，大学病院に属している先生方も多い．とすれば，医学教育の拠点であるべき場所で，医学の歴史的視点からの知識が不十分であるというのは，いかがなものであろうか．

NII-Electronic Library Service